慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	研究開発型ベンチャー企業の成長戦略 - 技術多角化・ 製品多角化と企業価値 -
Sub Title	
Author	折茂, 昭博(Orimo, Akihiro) 岡田, 正大
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2005
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2005年度経営学 第2034号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2034

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	岡田研究室	学籍番号	80430261	氏名	折茂　昭博

（論文題名）

研究開発型ベンチャー企業の成長戦略

―技術多角化・製品多角化と企業価値―

（内容の要旨）

医薬品開発ベンチャーの経営戦略上の重要な目標である株式公開（IPO）を実現するためには、新規性や有用性の高い技術を有しているだけでは不十分であり、基礎技術の事業化に関わる不確実性を効果的にマネジメントし、事業価値を顕在化させていく取り組みが必要とされる。このような問題意識から、米国の医薬品開発ベンチャーがどのように株式市場において評価されているのか分析し、技術多角化と製品多角化といった戦略が企業価値とどのような関係にあるか考察することが、本論文の主要な目的である。

特定の適応症を対象に複数の開発パイプラインの開発を持つ技術多角化は、医薬品開発ベンチャーの企業価値を高めるとの仮説を設定し、検証した。検証方法として、まず2004年から2005年に米国においてIPOした医薬品開発ベンチャー（30社）を分析の対象とした。次に、技術多角化と製品多角化の視点から医薬品開発ベンチャーの成長戦略を類型化したものを独立変数とし、分析対象企業の時価総額を従属変数とした。技術多角化とは、『特定の適応症を対象に複数の開発パイプライン』を持つことであり、製品多角化とは、開発パイプラインがPhase IIかそれ以降のステージに進んでいる『適応症が複数あること』を指す。

その結果、技術多角化は、医薬開発ベンチャーにとって、戦略上の意思決定の柔軟性を高めつつ、特定市場に対するコミットメントを強めるための有効な戦略の選択肢であることが示唆された。一方で、多くの市場を対象に製品多角化を行う場合には、それぞれの市場分野において競争優位性を構築できる技術等の経営資源を有していなければ、事業の成功可能性を高めることにはならないことも示唆された。